

連文

R E N B U N



Vol. **110**
2021.1



新春を迎えて
久留米連合文化会 会報 井口 益次

広報委員として思うこと

令和2年度 久留米市表彰

第56回 久留米短歌大会

第22回 短歌部歌評会

新春を迎えて

久留米連合文化会会長 井口益次



令和三年を迎え「今年こそは」の思いを胸に皆様と共に新年を慶びたいと思います。

それでも「日無吉凶人有禍福」の格言どおり、禍は突然やって来ました。中国武漢に端を発した新型コロナウイルスは昨年一年の間に全国に広まりました。ウィルスは低温と乾燥を好むと云われるだけに今冬は北海道発の第三波のコロナ感染が徐々に南へと広がりつつあります。

人口は日本の三倍程度の米国なので人が人種の坩堝とも称されるこの国では毎日感染者が十万人単位で増え続けています。そんな状況下大統領選挙があり片や強烈な個性のトランプ氏であるだけに陣営との間に亀裂を生み分断と対立が生み出されています。

振返って日本国内ではコロナ禍下諸々の文化活動が中止に迫られました。恒例の福岡県美術展覧会が中止になったのははじめ県南の久留米市・柳川市・大川市・筑後市などの総合美術展がそれぞれ中

止或いは地域を狭めて開催されています。

一方でコロナ禍下の中でも久留米文化推進協議会の絹笠順一会長が十月初めにえるピアに於いて自身の絵画展を開催されたことは特筆すべき事であります。会長のこの英断は自身の文化芸術に対する情熱を現す事は勿論、久留米連合文化会に対するご理解の強さをも示すものだと考えます。

令和二年度 久留米市芸術奨励賞の選考は 市文化振興課が中心となり、七月・八月・九月の三回の議事を経て決定しました。



結果報告に大久保勉 市長を訪問

選考委員には森山秀子氏（久留米市美術館副館長）、濱田耕治氏（西日本新聞久留米総局長）石橋潔氏（久留米大学文学部長）、市会議員四名、計十四名が参加しました。連文からは副会長の石山浩一郎・齋藤豊治・末永皎秀・川口樵博と私の五名が参加しました。結果は石田洋子氏（書道）・稻吉恵梨奈氏（洋楽）・倉八

広報委員として思うこと 写真部 中村金次

連文功労賞受賞は「困惑」、それが正直なところの感想である。なぜなら、自分は何に貢献できて功労に値するとされたのか、と考えさせられたからである。そのことについては、唯一取り上げることができるとすれば、広報委員として会報「連文」の表紙に於ける図柄作成の自分なりの工夫、見る人に何らかのメッセージが伝えられるよう取り組んできたところであろうか、と自問自答した次第である。しかし、広報委員として貢献できたかどうかをこの受賞の意味において案じる事は必要性ない、とした勝手な判断に至った。そしてそれは、いろんな文化活動において考える機会が与えられたこと、連文会員としての立ち位置についてより認識を深めることなど、今後の活動における大事なこととして受け止めた訳である。

ここでは、関係者の皆様に「ありがとう

環氏（華道）の三名に決定しました。結果報告に大久保勉 市長を訪問、十一月三日（文化の日）久留米シティープラザ久留米座に於いて表彰式が挙行されました。また、久留米市功労者として江口登氏（洋画）が表彰されました。今年をウィズコロナ克服の年とし久留米市総合美術展を成功させたいと思います。

うございます」と感謝申しあげ、携わっている広報委員会においてもお世話かけていることにお礼申し上げたい旨を申し添える。広報委員のメンバーは、委員長の肝入りで若い人が多数参画され、いろんな側面において活気ある編集会議が開催されている。会議は、コロナ禍を避けてインターネットにより開催されている。参加者の顔を見ながらの話し合いは、実際の会議室に居る感じでリアルタイムの進行がスムーズであり、このアプリケーションの出来栄に感心させられ、技術者に感謝。

ところで、広報委員会でいつも問題にされるのが広報誌面掲載原稿の集まり具合であり、各部門への協力依頼においては事務局に助けていただいている。また、社会は電子化されたデータとなり、紙媒体の原稿を扱うことが少なくなっている現状にある。本連文会報もその方向性を目指して取り組まれている。当委員会にはその情報発信への対応に抜きん出た技術の持ち主によるところのホームページや誌面のデザイン構成に優れたデザイナーの存在など、ベテラン委員によりしっかりと支えられている。当方は、このような環境における連文委員として、周りの人々に感謝しながら文化活動に励みたい、と思った次第である。

令和2年度 久留米市表彰

受賞された連文会員をご紹介します。
11月3日(文化の日)に市の表彰式が行われました。

芸術奨励賞

芸術分野で今後の活躍が期待される人に贈られました。

書道部 石田 洋子



この度の受賞感謝申し上げます。書との出会いはブリヂストンに入社時創業者石橋正二郎氏に是非との要請を受け会社に来ておられた馬場清香先生との出会いでした。先生は売名を好まれず只管書を愛され熱心に厳しく指導されました。馬場先生に指示するうちに伝統と格式のある久留米連合文化会書道部に入部したいと思うようになり十八年後に念願がかないました。その後県展の会員になり連文書道部の中で学び、いろいろな展覧会に挑戦、入賞することができ振り返っ

てみると夢であった日展入選迄果たすことが出来ました。さらに今回、久留米市芸術奨励賞までいただく事ができました。少しは馬場先生に恩返しのできたのではないかと思っております。本当に有難うございました。

洋楽部 稲吉 恵梨奈



この度は久留米市芸術奨励賞を受賞させていただき、大変光栄に思っております。

今年は新型コロナウイルスの影響でコンサートを開くことができなかつたため、改めて、皆さまの前で演奏させていただけることがいかに尊く喜ばしいことかを痛感いたしました。

また皆様に生の音楽をお届けできる日が来ますことを心より祈っております。そして、より沢山の方々にオーボエの音色を聴いていただき、久留米市の音

楽文化振興に貢献できればと思っております。これからもこの賞の名に恥じぬよう精進して参りますので、変わらぬご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

華道部 倉八 環



このたびは久留米市芸術奨励賞という名誉ある賞をいただき、身に余る光栄です。

今年はコロナ禍のなかで生け花の活動も自粛せざるをえず、ぼっかりとお稽古のない生活が続きました。ようやく活動再開を果たした矢先に7月には大雨、9月には台風と、度重なる自然災害が久留米の地を襲い、正直な所、このような日々の中で生け花をやっていくことの意味を自身に問いかけることもありました。

そんな時に今回の奨励賞のお知らせをいただいたので、私にとっては本当に「励まし」となるものであり、改めて、これからも頑張っていこうと決意する力をいただきました。

今の私があるのはたくさんの方々を支

えていたおかげです。心から感謝しています。皆様のご恩に報いるためにも、これまで以上に努力を重ね精進いたします。

久留米市功労者〈文化振興〉

文化振興、社会福祉の増進など、市の振興発展に寄与した人が表彰されました。

洋画部 江口 登



この度は身に余る賞を頂き深く感謝し、心より厚くお礼を申し上げます。私は五十年前に洋画家の内野秀美先生に指示したことから、人生に生き甲斐を求めて芸術の世界に入りました。筑後地域は全国有数の文化芸術の盛んな都市でもあります。久留米連合文化会の会員として文化芸術の振興ができています。皆様のご指導とご協力があってのことだと感謝しております。私は様々な美術団体を通じて、日展、示現会、県美術協会で絵画活動をしています。今後も微力ながら人々の心に「芸術の旅」を止まることなく「美」を発信しながら邁進してゆきたいと思っております。

【報告】

令和2年 1月～12月

第56回久留米短歌大会

令和二年一月に、第五十六回久留米短歌大会応募用紙を市内各所に配布して... 久留米連合文化会賞 栗林 喜美子選

久留米連合文化会賞 栗林 喜美子選

原口 まちこ(久留米市)

彼岸会にうからと思ひ出語りつつ組

みゆく母とふ立体パズル

◎西日本新聞社賞 高齢者賞

高倉 久年(朝倉市)

床につき北の国から県名を暗誦しつつ眠りにつかむ

倉員 世紀子(八女市)

蓮の芽は未だ見えねど如月の風は光りて水面を走る

※令和3年度の久留米短歌大会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止致します。

第22回短歌部歌評会

例年七月に開いている会員による歌評会を、今年十月に石橋文化会館研修室で開催しました。

選者二名及出席者十六名、出詠数十八首及び互選による結果は次のとおりです。

藤吉 宏子選

一位 雑草を刈りて追はれし虫たちの栖

は何処鳴く声かすか

大津留悦子

二位 にはか雨一気に入りわが回り天より地より蝉の声立つ

本松 純子

三位 豪雨にも台風にも耐へぶら下がる

実生の南瓜片手に重し

名島 ミヤ子

栗林 喜美子選

一位 疫もなかまざるごとく逝きませ

り淡藍の技愛子に託し

酒井 イオエ

二位 月光に和して響かふ秋の波消えゆく歩歩の余韻とはなる

大津留 直

三位 にはか雨一気に入りわが回り天より地より蝉の声立つ

本松 純子

互選

一位 豪雨にも台風にも耐へぶら下がる

名島 ミヤ子

二位 にはか雨一気に入りわが回り天より地より蝉の声立つ

本松 純子

三位 道譲る我を越しゆくライダーの若き背中

古賀 耀子

(短歌部・田代直美)

水墨画 第39回心象会展

大石柴光とそのグループ

令和2年3月

下旬に展覧会の予定でしたがコロナの為12月15日(火)から20日(日)まで久留米市一番街多目的ギャラリーで開催



しました。

寒さの中、感染予防のマスク、消毒、名簿に記名又ドアは開けたままという厳しい条件の中でありましたが、毎回楽しみに来て下さる方々もいて感謝の6日間でした。(水墨画部・古賀利恵)

久留米児童合唱団第49回定期演奏会 8/14(金) 久留米市石橋文化ホール

ふれあいコンサート 10/11(日) 文化センター共同ホール

第5回緑人会写真展

11/1(日)～6(金) えるピア久留米2階ギャラリー

71回西部示現会展

11/17(火)～22(日) 久留米市美術館1階展示室

第32回南祥会書作展

11/25(水)～29(日) 久留米市一番街多目的ギャラリー

第27回賢順記念全国箏曲祭

12/6(日) 久留米シティプラザ久留米座

計報 (令和2年7月～12月)

謹んでご冥福をお祈り致します。

椰尾和枝さん(華道部) 8月15日

宮原悦子さん(華道部) 9月12日

田中小夜子さん(工芸部) 12月25日

【行事のお知らせ】

平成3年 1月～7月

令和3年 九州宝生会定期・初春能

1/17(日) 久留米シティプラザ・久留米座

連文水墨画展

3/2(火)～7(日) 久留米市一番街多目的ギャラリー

令和2年度 第1回理事会

コロナ禍もあり、長く開催されていなかった理事会が2020年12月14日、開催されました。

この理事会は当初の予定時間を大幅に超過、3時間にも及ぶものですが、予定されていた議事そのものより、今後の会の運営にも影響する貴重な意見が数多く出され、有意義なものとなりました。

当日の正式な議事録はありませんが、幸いテープは保存されていましたので、それを元に乱文ながら、要約したものをここに掲載いたします。重複しているご意見等は誠に失礼ながら割愛させていただきます。また文中敬称は略させていただきます。

また、理事会案内状にある「欠席の際は議長に一任をする」という一文は削除していただきたい。

▼議長

今後の正常な理事会の運営についての確約を議事録(録音)として残し、今後の正常な運営につなげる。

第1号議案【協議・報告事項】

▼事務局 中井

平成2年度一般会計第2次補正予算の審議

●記念事業及び特別会計の現状についての概要報告

70周年記念事業費の予算はコロナ禍の影響により

(1) 市からの補助金減額

(2) 文化推進協議会予算もゼロになり、補正予算を2度組むことになった

▼補足：末永予算委員長
前会長時代には会議の開催無しに会長一存ですべての物事が決まっていた。非常に危機感を持っている。今後は正常な運営になるよう望みたい。

▼洋舞 斉藤

コロナ禍の現在、連文としての活動は制限され、個人的な活動ばかりになっているが、連文の運営についてよく考えるチャンスなのではないか。予算があり、補助の項目もあるが、例えば特に舞台芸術関係では、連文の「名義後援」は付けていただいても、補助金などはこれまで一切載かず、主催者相互の自助努力によって、イベントなどの表現活動を行ってきた。

多士済々が集う連文のジャンルは広く、それぞれの活動にはギャップもある。その

の違いの本質的なところを会員相互が議論して深めていく必要があるのではないかな。なにも形式的な話し合いではなく、座談会的な自由討議でも構わないと思う。

▼日舞 花柳

日頃から、今の連文は不公平だなあと感じております。もともと、自分たちのことは自分たちで賄おうという思いから、普段は記念事業に使って欲しいと云っていますが、例えばその記念事業においてもお茶やお花は20万ずつの予算が組まれているにも関わらず、日舞の会員は非常に苦しい思いをしている。

70周年予定の支出部門で人件費が34万計上されているが、事業はなかったのに支出は発生しているのか。

▼事務局 中井

2019〜2020まで記念事業の特別会計から準備費用として支出している。詳細な内容は事務局にあります。また監査は済んでいないので3月の監査を経て正式公開する。

▼補足：末永予算委員長
お茶やお花に組まれた予算は補正を経て執行はなしになっている???

(※録音からは要点不明で議事録として起こせず)

▼彫刻部 内野

70周年の決算書は(案)です。補正予算を組まれたのは、資金不足が原因だと思われるが、茶道部だけは増えているのはなぜ?

▼事務局 中井

茶道部は茶会の開催が当初は予定になかったのが、やはり挙行するというところでその後の補正で予算に入れた。理解に齟齬があり、正式な理事会総会にあげる前、正副会長会議で審議されたものを事

業案として理事会に付託している。

▼彫刻部 内野

当初予算になかったものが、全体の予算が不足して補正を組んでいるのに、追加事業として認められたのか。

▼事務局 中井

国の方針として、コロナ惨禍の渦中で締め付け一辺倒ではなく、可能な限り事業を推進する方向に変わっていったために、茶道部の事業を行うことになったため予算をつけた。

▼広報 隈

正副会長会議で「決定」という言葉を使うために混乱する。正副会長会議が行うのは「会への提案」であって決定ではないのでは。

▼彫刻部 内野

正副会長会議が行うのは会の統括・審議(規約第7章第27条)であって議決は行えない。議決機関は理事会総会のみであるのに、あまりにその時の事情により拡大解釈しすぎではないか。

◎第1号議案は協議・報告議案であるので、今後さらに継続協議することで理事会承認を得た。

第2号議案【規約改正について】

●議案1 規約に書面決議の項目を加える

●議案2 理事の人数 華道・茶道の理事人数の追加

●議案3 第29条 企画運営委員会についての改変案

▼彫刻部 内野

●議案の1 規約に書面決議について
提案上の「やむを得ない理由」について正副会長が判断するというのは如何なる

のか。やむを得ない理由とは何を指すのか。コロナ禍の事情はわかるが、それならば、緊急の時限立法的なことで処すべきで、規約に書面決議の規定を設けるべきではない。例えば、昨年来より理事会の開催がなかったことなども「やむを得ない理由」で、処理してしまわれかねない。規約に明記すればそういった危険性は極力排除されるべき。

コロナ禍の事情は誰もが納得する。ただしこれを規約として制定するのではなく、〇〇〇〇までこれを適用する、といったことで十分ではないか。

▼広報 限

「やむを得ない理由」ということでも取れる理由にするのではなく、毎回、例えば「コロナ禍の事情により」など、理由を明確にして判断すべき。重複するが、正副会長会議が判断する、決めた、決定したとよく云われるが、議決権はない、その正副会長会議に一体何人出席があったのか、経緯の説明もない現状では、これを規約としてあげるのは無理がある。内野氏の提案通り、時限立法的な処理にすべき。

▼彫刻部 内野

別途、規約改正委員会等を立ち上げ、十分な協議を行ったのち、提案を行うべきではないか。何れにしてもこの議案を提案された正副会長会議に差し戻して検討いただくべき。

◎第2号議案 議案1は採決の結果、否決

▼彫刻部 内野

●議案2 理事の人数について

前項にかかわらずと記されているこの議案だと、まず人数的なアンバランスが

生じる恐れがある。途中で会員数の増減があった場合はどう対処するのか。もとより花柳、柿原、森会長時代を通して、理事の人数は極力減らしたいとの意向ではなかったか。理事というのはステイタスでもなく、各部の利益誘導代表でもない、連文全体を俯瞰して考え、発言できるものでなければならぬという方針だったと思う。

例えば、現在、副会長は各部門から一人である。ならば理事は各部門から一人、という考え方もあるのではないか。理事の存在意義から考慮して、これには明確に反対します。

◎第2号議案 議案2は採決の結果、否決

▼広報 限

●議案3 第29条 企画運営委員会についての改変案について

機能していない企画運営委員会は廃止した方がよい。

▼洋画部 向坂

この提案だけでは、承服しかねます。どんな形で意見を集約するのか、この1行だけでは見えて来ないので、お聞きしたい。

▼工芸部 高木

企画運営委員会を廃止する理由がよく分からない。説明を求める。

▼事務局 中井

企画運営委員会は会長指名で成り立っていたが、うまく回らない状態であった。各部の部長へ打診したところ、廃止したほうがいいのではないかと意見が出た。ただし、正副会長会議ですべて行うのは無理があるので、広く各部長の意見を聞くようにしたらいいのではないかということになった。

▼彫刻部 内野

企画運営委員会は答申を正副会長会議に対して行い、その結果を理事会に降ろすというやり方だったが、この議案だと役割や権能が全く不明。もう少し丁寧な文として整備して再度提案する必要がある。行おうようにしたらどうか。

◎第2号議案 議案3は採決の結果、否決

第3号議案 【人事案件について】

▼彫刻部 内野

雇用の延長について異論はないが、辞令交付、労働条件契約書等の雇用に関する整備が必要

◎第3号議案は採決の結果、承認された

その他のご意見

▼書道部 堀江

国際交流に関しては現在総合文化部門の一つの部としてあるが、他の多くの部門にも関わることで、今後連文の主要事業として主体的に積極的に取り扱っていただきたい。

▼諸石 副会長

現在は、久留米にもたくさん来ている留学生を連文の様々な事業に参加いただくことを目指して立ち上げたもので、総合文化部でなければ、という性質のものでありません。大いにやっていたらいいのではないのでしょうか。

▼彫刻部 内野

本日の確認を求めます。

◎理事會案内状にある、欠席の際は議長に一任するという一文を削除 確認承認
・昨年4月16日以降一度も理事会が開

かれなかった原因は、今後の運営のためにもつまびらかにするべきではないか。

▼諸石 副会長

昨年、4月16日理事会で、もっと理事会を開くようにと木村前会長は理解を示されたが、その後、ご本人、家族の健康上の理由もあり、会長職を突如辞され、代行を私(諸石副会長)が行ってきた。今年に入って、コロナ禍に見舞われ理事会開催の機会を失ってしまった。

▼石山 副会長

連文が何を指して活動しているのか、そのために何をやるのか。

正副会長会議は行われていたけれども理事會は開かれてなかった。そうこうするうちにコロナ禍となった。実際にはほとんど活動はしていない。そのことについては副会長として責任を負います。

原因は最初からそこにあったわけですが、企画運営委員会から隈氏が解任された。木村会長から記念行事に関する意見は求められなかった。反対すると会長から呼び出されて怒られるという状態だったのは事実です。

この理事会でいろんな膿が出てきて本当にすっきりとした。ぜひ理事会で議論を戦わせて目標を決めた活動を行っていただきたい。連文は、果たして市民のためになっているのか、利権争いではなく、根本的にどういうものを目指してどうやっていくのか、今後の理事会に非常に期待している。

閉会

当日は3時間以上にも及ぶ、長時間会議だった。

(文責・今村好典)